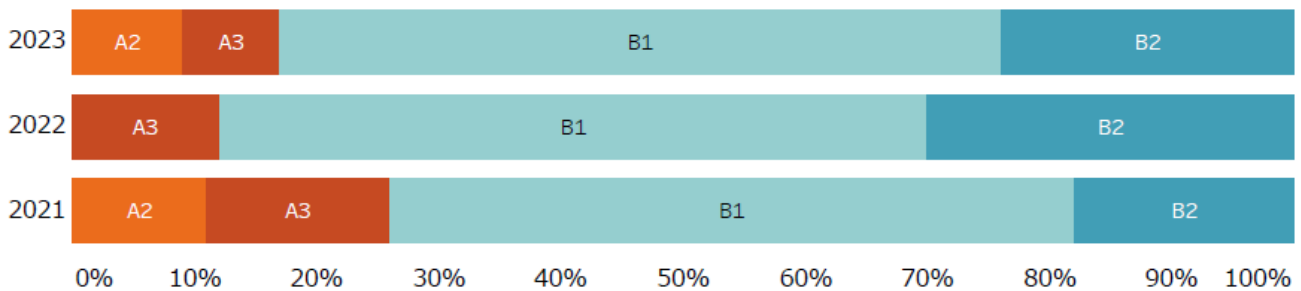


2023年 淑徳与野 算数（第1回）

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。出題分野の構成、問題数は、ほぼ例年通りでしたが、2022年と比べてB2が減り、A2が増えました。試験時間60分で（第2回は50分）となります。かなりボリュームがあるため、方針が立ちやすい問題から手を付けていきます。正確な計算をする力、作図をする力、情報を正しく読み取る力が求められる問題がよく見られます。



大問1は、計算2問、一行題1問でした。例年、手間のかかる計算が出題されますが、落ち着いて取り組むことで、得点源となります。(1)は「2023年」にちなんで、 2023×1 、 2023×2 、 $2023 \times 3 \dots$ と、2023の倍数が式に並んでいました。この点に気づくと、分配法則を利用することができます。大問2は、昨年と同じく、図形の一行題が並びました。テキストでよく見る問題となるため、得点しておきたいです。(2)は四隅の面積の割合を求めて、平行四辺形全体の面積から引きます。(3)は、(斜線+三角形AFE+三角形EGC)の面積と(四角形IEHD+三角形CHE+三角形EIA)の面積が等しいことに気づければ、斜線部分の面積が四角形IEHDと同じとわかります。大問3は、(1)食塩水の濃度、(2)規則を利用する問題でした。(2)は、棒を並べる規則を捉えて一般化します。(2)①、②は確実に取っておきたい問題です。

大問4は、速さのダイヤグラムの問題でした。情報が細かく示されているので、A、Bの速さを出して求めることも、グラフから比を利用して求めることもできます。大問5は、2021年から淑徳与野で見かけるようになった「会話文を読み取る問題」でした。例年、会話文には手がかりが示されているので、情報を正しく読み取って、誘導に乗っていき、答えにたどり着くことができます。今回は規則性の問題でした。電球の点き方を調べていくと規則が見つかります。ア～エは確実に取っておきたい問題です。

大問6は、水そうに水を入れる問題でした。グラフの傾きから、水そうの水量変化を捉えます。大問7は、三角形を回転させて、辺の通った後を捉える問題でした。テストの最後に配置されていますが、テキストでよく見る問題です。得点しておきたいです。(2)は、辺ABの長さを足し忘れないように注意します。

例年出題される分野があるため、過去問を活用した対策がとても有効です。あくまでも予想ですが、大問3(2)③、大問4(2)、大問5オ、大問6(2)、(3)の5問を落とすとしても、およそ7割には達することができると考えられます。